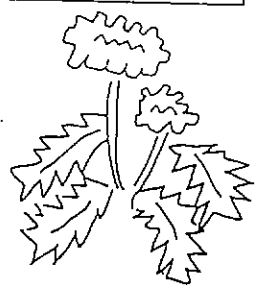


NO 181
 H14年7月1日
 -発行-
 〒869-1217
 熊本県菊池郡
 大津町森54-2
 社会福祉法人
 三気の会
 三気の里
 ☎096-293-8100



就労ケアー科中途経過報告

田之上 健一

平成十四年度より新設された部所でありますが、率直に申し上げますと模索中の不安定な状況で進行中であるのが現状です。

三気の里も開所して十六年目に入りますが、当時全国でも珍しい自閉症者を中心とした療育施設としてスタートした経緯があります。

ふと歴史を回想すると、最重度判定で強度行動障害を併せ持つ方々が多い三気の里では、生活指導へ力点を置くのは必然的と言える事でした。又、故 田中理事長の想いや自閉症の子どもさんを持つ家族の方々の想いが一杯詰まった施設として、親亡き後も安心して暮らせる施設として存在していきま

す。指導員として何を利用者の方々に提供でき、一緒に取り組んでいくのかと考えると、施設生活にはありますが一般的な普通の生活に近く、より豊かな生活の実現に邁進してきました。又集団生活という条件の中でも個々のニーズに合わせたサービスの展開が可能かどうかを模索する必要もあると考えています。(選択肢の拡大)

同時期に又は、後にできた同様の自閉症者施設をいくつか見学する機会がありました。地域や社会との交流、接点の機会は多くもち、全ての面で生活指導であれ施設職員だけでは解決できないトータルバランス的つながりがあると感じました。

今年度に入り、家族会(保護者会)で意識調査というアンケートを出しました。正直ドキドキしていたのですが、約半数の方々に回答を頂きました。アンケートの内容容として①措置制度から契約制度の移行について②現状の施設の満足度について③新設の作業場について④グループホームについて⑤就労及び体験について等の質問でした。非常に答えにくい内容も含

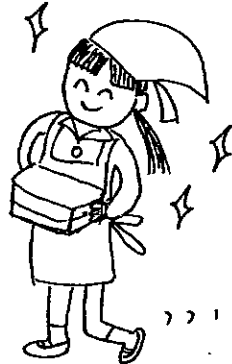
まれていたのは事実だと思いましたが、今後の指針として、又話し合える機会として大変重要だったと認識しております。統計について具体的実数は計上しませんが、今後の検討材料となりました。

ご協力有り難うございました。

現在の活動報告として、2名の方が企業体験を毎日行っています。地域の老人の方々に有償ボランティアとして弁当配達に交替で2名参加し、作業訓練を仕事として担えるメンバーが5/6名程度活躍し給料として還元できるかという状況です。まだまだ先が遠いのですが、まず一步を踏み出さなくてはとの想いだけです。見守って頂きたいと思えます。

社会福祉基礎構造改革について分かりにくい点や不安に感じる面があるのは否めません。制度上の改革については社会情勢の変化に伴うものなので仕方ないのでしょうが分かりやすくして欲しいもの

です。地域福祉がクローズアップされるようになった現在、グループホームや地域への移行、就労、福祉的就労が積極的に唱えられ始めましたが、不安を残しながらの移行は難しいものがあります。昨今の不況下における環境が大変厳しいものとなってきていることを踏まえ制度上でも「知的障害者援護施設入所者の地域生活への移行の促進について」の一部改正について入所施設に加え通所施設においても、再入所を希望するものをおおむね認可定員の5%の範囲内で定員を越えての入所措置を認める。となつていきます。やはり不安はついてくるものですが、身近な施設のバックアップを確実なものとし、必要と感じたらいつでも利用できる安心感を与えられる施設であるべきと思います。個々の生涯をより豊かに、充実した生活を送れる為に。



1 班・焼きそばパーティー ㉑

紫陽花の花があちこちで彩り始め、梅雨の季節がやってきました。蒸し暑い毎日が続きますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？去る6月6日（木曜）天気☁ 私達一班のレクリエーションにて焼きそば作りをしました。場所は、風の里キャンプ場、一人一人が材料を切り、皆で協力して作り上げました。なかなか包丁を持つ機会のない人は、両手で包丁を持ち、ノコギリのように前後に動かし切ったりとハラハラ💦ドキドキ💦して行っていました。中では自宅で手伝い等で経験が有るようで、左手で野菜を支え、しっかり切れている人もいました。出来るまで、少々時間がかかり、焼きそばを目の前に色んな誘惑が有りましたが、皆グッと我慢！出来上がった焼きそばは、少々野菜が生？な所も有りましたが、外で食べる雰囲気でしょうか、いや、皆で作ったからでしょう！！野菜の苦手な人も全部食べていました。満腹になった後は、ちょっと休憩🌳木陰にシートを敷き、疲れを癒しました。この日は、6月というのに真夏日☀️気温34度！しかし、さすが風の里キャンプ場🌳涼しく、のんびり過ごせました！昨年のホットケーキ作りから、ワンステップした今回の焼きそば作り。日頃、経験出来無いことをしてみると、色んな顔が見えて来るように思えます。さて、来月は年に一度の宿泊レクリエーションです。次号をお楽しみに🍴

宮原

3 班・監督就任

ある日の午後、新しい作業の説明が行われました。みんな、テーブルの周りに正座し、身を乗り出して説明を聞いたり、頷いたりする姿は真剣そのもの。作業は、バイクの部品の組み立て作業で、電線と部品をつなげる作業でいくつかの工程に別れています。まず、第一の工程は、部品の右側に電線をさすこと。それを岩永さんは2～3個目には完全にマスターし、練習用に用意してあった50個をあっという間に仕上げてしまいました。しかし、驚いたのはこの時ばかりではありませんでした。何と岩永さんは50個ではもの足りず、「もっとくれ。」と言うように手を差し出して、催促しています。「ごめんね。岩永さんの分は終わったから次は他の人の作業ね。」と他の利用者の可能性も引き出すため、岩永さんにはあきらめてもらうしかありませんでした。それでもまだ、あきらめきれないのか、他の人の作業をやっている後ろで、腕を組み、じっと見つめています。その姿は、まるで、監督がチェックしているかの様でした。そのうち、「そこ、ちが～う。」と監督のチェックの声が聞こえてくるかも・・・。

菊池

6 班・青空の下!!クーラーの下!!

6月だというのにこの暑さは何でしょう!梅雨はどこ?爽やかな初夏はどこ?作業中もまだクーラーを付けるのは早過ぎるのではないかと思っていた今日この頃ですが、仕分けの作業場が余りにも蒸し暑く負けてしまい、現在快適な環境の中で作業しています。今からこの暑さでクーラーを付けていたら、夏はどうやって過ごすのだろう。そんなことを青空の下、洗濯物を干しながら考えています。それにしても、こんなに天気の良い日が続くと洗濯物もカラッと乾いて気持ちがいいですね。夏物になり衣類も薄手のものが多くなり、仕分けする量もかなり少なくなってきました。この時期ぐらいから仕分けが終わる時間も早くなるので、終わった後は園内の環境整備を行っています。日頃毎日掃除が出来そうも無いところを中心に行っているのですが、なんせマイペースな人が揃っている6班です。あそこもここもとは出来ません。1つの場所をじっくり掃除しています。しかし、ただじっくり(ゆっくり、のんびり)掃除しているわけではありません。丁寧にしているのです。隅から隅まで窓のてすりや、角の方までゆっくり丁寧にしているのです。又ときには園舎の周りを散歩がてらにゴミを拾ったりしながら環境整備までかねてしているのです。二刀流ってところですね。のんびり、爽やかな風を受けながら、楽しみながら環境整備も頑張っている6班でした。

八木

2班・聞いて、聞いて！

毎日暑いが続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

我が2班のネット作業は、インターナショナルケミカルという会社より仕事をいただき、施設敷地内の作業棟で果物用保護ネットを折り、組み、袋詰などを行っています。施設内作業棟で作業を行うばかりではなく、地域社会への参加や将来を見据えると施設外部で働く経験も必要だということもあり、5月よりインターナショナルケミカルへ体験実習をさせて頂くこととなりました。その体験実習に抜擢されたのがさゆりさんです。本人はとても喜んでおり「外部で作業をしている」ことがすごく励みになったようでした。しかしその反面、緊張もあったようです。何せ、今まで会ったことも話をしたことも無い、見知らぬ人の中で作業をしなければならない。職員が側にいると分かっている、心の中はきっとドキドキ…。そんな緊張の中でもさゆりさんは逃げることなく、仕事をがんばり、笑顔で「今日もがんばったよ」と教えてくれます。毎日、暑い、お腹すいたと愚痴をこぼしている私よりもずっと頑張っているさゆりさん。さゆりさんの頑張っている姿、とってもすてきですよー 岩本

4班：へ・ち・ま

日本中がワールドカップで盛り上がり、日本代表は感動を与えてくれました。このたんぼぼ新聞を皆様が読まれている頃には優勝国が決定していることでしょうか。

5月31日さわやかな快晴●の日にヘチマの種を蒔きました。「いつ芽が出るかな〜？」と心待ちにしながら、毎日水撒きに励んでいたある日、いつものように畑に行くと、かわいらしい双葉が顔を出しているではありませんか！藍さんは率先して水撒きをしてくれていただけあって「芽が出てる！これがヘチマになるの？」と興味津々でした。実は、三気ブランドのヘチマたわしやヘチマ化粧水を作ろう！ということで初の試みであるヘチマを栽培することになったのです。皆様のお手元に届けることができますように…その際はヘチマたわしとヘチマ化粧水を使ってしっとりすべすべのお肌になって下さいね☺

P. S 森川さんより堆肥をいただきました。ありがとうございました。

石田

5班・相席初体験☺

今月のレクリエーションでは、久しぶりに熊本交通センター、岩田屋などの「街」を体験しました。到着してさっそく昼食タイムでしたが、平日にも関わらず人、ひと、ヒトの波。ラーメン、トンカツ、どんぶり店に3グループに別れたものみんなが一緒に食べれる席が空いていません。特にラーメン店ではカウンター席が多く、テーブル席は二つだけ。困ったなぁと職員が「他の店に行こうよ。」と誘うものの、高木さん、林さん、橋村さん、佐々木さん、清田さんの5名は、自分で選んだラーメン店の前からガンとして一步として動こうとせず、さらには店にどんどん入って行く強情ぶり。みんなの根気強さに負け、結局はその店に入ることとなりました。席はというと、なんと相席。どうしよう、大丈夫かな、注文出来るかなと、職員の心配はよそに遠く離れた席に、しかも他のお客さんと相席していた橋村さん、佐々木さんは堂々としたもの。文字だけのメニュー表を片手に「納豆ラーメン、鶏ガララーメン、ギョウザ、おにぎり」とちゃんと自分で注文してはいませんか。さらには待ち時間、食べ方のマナーもバッチリ！あ〜、もう感動です。みんな無事に食べ終わり、店を出る時、全員が「ごちそうさま様でした☺」と大きな声で一礼。他のお客さんよりも礼儀がなっています。それまでちょっと不安そうにみんなを見守ってくれていた店員さん達も「ありがとうございました☺」と笑顔で返してくれました。

みんなの力は無限です。何事も体験です。今までは職員が心配症の為にみんなの可能性を伸ばせなかった部分も多いなぁと、みんなにはこの体験を機に反省する機会を与えてもらいました。職員が心配症をちょっと卒業すると、一人での外出、外食ができる日も間近なのかもしれません。 佐藤

療育権記

三回忌

石井康就

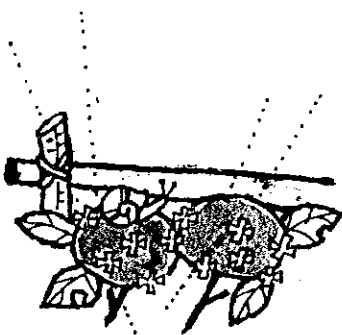
「こんにちはー！」私はまだ三気の里に入り駆け出しのころ、作業をしていると離れたところから大きな声でしゃかりと挨拶をしてくる青年がいました。その青年は家族の方と三気の里を見学に来ていたようで、その青年の第一印象としてはとても明るく元氣そうな人だなあとの印象を受けたことを覚えていきます。それから間もなくして彼は三気の里へ入所してきました。その当時私は木工班に所属しており、農耕班となった彼との接する場はあまりなく、いつも廊下ですれ違い様に「石井さん、〇〇知ってる？」等の芸能人に関する質問をしたあとに私が「知ってる。」と答えると嬉しそうにして、手をたたきながら廊下をスキップして走り去っていた彼を思い出します。

私が4年目の時に班の移動があり、私は彼と同じ農耕班となりました。担当決めをする会議の中で、入所以来何となく気になっていた彼を担当したいと自ら申し出たことを覚えていきます。担当して一年が過ぎ、二年目の春に彼は徐々に調子を崩していき、三年目の春には私が最初に印象に持っていた彼とは大きく変わってしまった、会話の多くは不安に関する事へと変化し次第に自虐的な行為に及ぶようになっていきました。そして：H10年4月末に二階から自ら飛び降りるといいう行為に至ってしまった、腰椎骨折という大怪我を負い、下半身麻痺になる可能性があること担当医から告げられました。しかし、ここから彼は私たちに数々の奇跡を見せてくれました。驚異的な回復力で辛い入院生活、大手術を乗り越え、半年後には一緒に宿泊レクリエーションに参加できるまでに回復し、周りの皆を驚かせました。この年で私は彼の担当から離れることとなったのですが、とても辛い春がやってきてしまいました。それも突然に：。H11年5月、彼、猛さんは帰らぬ人となってしまいました。

三回忌の前に猛さんのお母さんとお電話でお話しする機会があり、まだ三気の里の前の道を通ることができないと言われながらも、私にはお互いいつまでも引きずってはいけけない、先へ進みましょう。との有り難い言葉をかけていただきました。私も同様に苦しい入院生活を送り、また最後に搬送先となったN病院の前の道を走る時はとても辛く未だに胸が締め付けられ苦しくなります。猛さんがいることで三気の里のたくさんのことが変わり、またいなくなつた今もたくさんのことを愛えてくれているように思います。三気の里の利用者の方たちの不安・要求などの代弁者的存在だった猛さんが今の三気の里にいたらどんな事を訴えているだろうと考える事があります。

今年からは苦情処理委員会というものを設置し、先日第一回目の利用者の方たちと話し合いの場を持つことができています。猛さんがいたら何と言っていたかなあと思像してしまいます。

三気の里もここ数年で職員が入れ替わり、猛さんと実際に接したことのある職員も半分くらいに減ってしまいました。しかし、猛さんという人がいたということを知らない職員は三気の里にはいないと思います。これからも私たち指導員に数々の教訓を与えてくれた猛さんを残された職員が語り継いでいき、利用者の方が安心して生活できるようによりよい三気の里造りを目指していきたいと思っています。



会長 菅生 啓 中

地域交流支援科

大石 由紀

就労ケア科だより

両角 彰則

水無月祭

石丸 直美

6月になり、遅めの梅雨入りになりましたが、雨の降る気配が感じられませんが、水不足の心配をしている、このころですが、厨房に実習生が入ることになりました。なんと、男子実習生だったので、ちょっとびびくり。(男子厨房へ入らず?)なんて言葉を思い浮かべて、今は(男子厨房には入り)なんだなと実感しました。利用者の皆も、なぜ厨房に入っているんだろう?という顔で見えています。実習では、調理を始め栄養管理(栄養計算)・衛生面(掃除)など、一日の流れを通して、色々体験してもらいました。調理など、今からの生活に役立つのではないかと思えます。

それから、厨房の床が新しくなりました。今までとは違う雰囲気になって、とてもいい感じですよ。汚れないうちに、厨房でワックスかけをしました。これからは、定期的にかけていきたい、思っています。

園舎脇の紫陽花が満開になり、日常の喧噪をしばし忘れさせてくれる輝きを放っています。皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、当科ではいよいよ十一月の開園記念祭に向けての準備に取り掛かり始めました。昨年、初めて地域に向けてのイベントとして行い、今年で2回目の大イベントとなります。昨年は何分にも初めてという事で全てが手探りの状態で、不備も多くありました。しかし、多くの方々に改めて三気の里を知って頂く事ができ、また多くの方々と交流を持つことができ、地域の方々の温かさに深く感謝した次第です。今年も、昨年築いた繋がりを軸に、更に地域との交流を深めて行くことができるようなイベントを目標に、準備に努めたいと思います。十一月の開園記念祭には是非多くの方々のご来園をお待ちしております。

現在、作業所が建っていない状況で、作業所でする仕事や利用者の方を決めるのにとっても迷っています。利用者の方をどうやって決めるのか、人数は何名にするのか、仕事は一種類にするか悩んでいます。しかし、悩み過ぎてても行動(実行)しなければ何も進まないと思ひ、行動しながら考えていこうと決心しました。

まず、作業所が建っていないので仮に交流ホームを使用させて頂き、利用者の方を五、六名誘い練習期間として、仕事を行っていただきます。仕事は、玉名郡横島町にある中野ハイテック様から下請けとして、バイクのエンジン内の一部、電装作り(電線)を受けています。一つの電装を幾つかの工程に分けてラインを組み、流れ作業で仕事を行っています。練習期間といっても静かで黙々と仕事を行っています。今後、スケジュールを組み作業所の形を作り、一歩ずつ前進して行きたいと考えています。

三気の里メールアドレス紹介

三気の里についてのご意見、要望その他何でも結構ですのでぜひメールをお送り下さい。

皆様の声をお待ちしております。

URL <http://www7.ocn.ne.jp/~sanki>

E-mail sanki@siren.ocn.ne.jp



金丸



スペシャル駅伝

今年は五月十一日に開催され、スポーツクラブ中心で参加しました。長く走る人で二〇〇メートル、短い人では五〇メートルで、実力を出し切った人、そうでなかった人様々ですが、皆いきいきとした表情で走りました。これも冬場のスポーツクラブで運動公園や園周りで走り込みをしてきた成果でしょう。タスキの受け渡しに少々課題は残りましたが、来年、上位入賞へ向けまた練習です。

高橋

輝き大会

今年は何年と違い、保護者会後の日曜日ということで殆どの利用者が帰宅しており、在園生中心の参加となりました。しかし、参加した利用者は期待を裏切らず、パン食い競争、綱引き、徒競走などで年に1度の輝いた表情を見せてくれました。大会後の居酒屋での「打ち上げ」もとっても楽しかったです。参加出来なかった人達は申し訳ありません。来年は一緒に

高橋



事務だより

恵みの雨もすぐに止んでしまい梅雨は、何処に行ったのでしょうか?この時期の大津は、緑がとっても奇麗で田植えされた景色は、又格別です。

新メンバーで始まった事務所もそれぞれの個性を出し合って軌道に乗りつつありとってもりっぱなバスも届き今年のレクや宿泊レクには、大活躍の事でしょう。アツという間に通り過ぎる夏を今年はエンジョイしたいものです。

橋口

後援会募金のご案内

三気の里では、後援会を募集しています。御入会頂いた方には、毎月発行している機関紙「たんぼ」をお送り致します。

振振り込みみ先

口座番号

0197018114902

社会福祉法人 三気の会后援会
保護者会代表 魚谷 秀文 宛

住所

熊本県菊池郡大津町森54-12

一口 3千円

団体は、一万円より

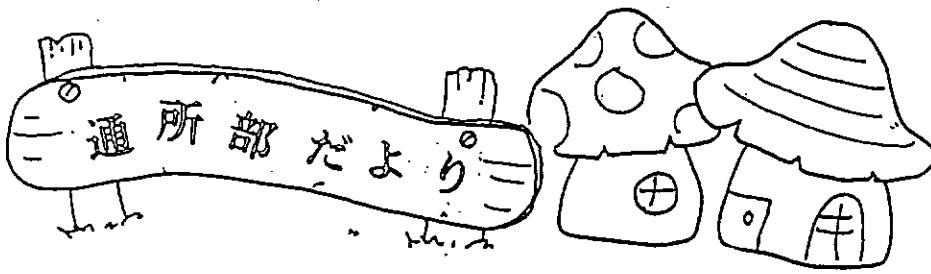
後援会ありがとう

- 光山 恵一・中原 喜徳
 - 平野 嗣雄・村上 久幸
 - 島津 眞一・今西千賀子
 - 矢鋪 涉・二宮 清香
 - 平野 順子
- ※敬称略

かわいいと思いませんか?まいちゃんとお絵描きをすると、小さな声で「お母さん、お母さん」とつぶやきながら描いています。なぜかお母さんが一番大きく描かれているんですよ。

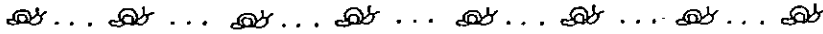
☆のんき・こんき・げんきコーナー





7月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5 ☆給料日	6 ◎ 休み
7 ◎ 休み	8	9	10	11	12	13 ◎ 家族会
14 ◎ 休み	15 ◎ 振替休日	16	17	18	19	20 日曜日 ◎ 休み
21 ◎ 休み	22 ◎ 休み	23	24 ◎ レク	25	26 ◎ 夏祭り	27 ◎ 休み
28 ◎ 休み	29	30	31	◎ 6日、7日、14日、15日、20日、21日、27日、28日 休み ☆ 5日 給料日、◎ 13日 家族会、◎ 24日 レク、◎ 26日 夏祭り		



通所部通信

『作業業』

現在、通所部で生産している商品の説明をします。

ホテルや旅館の料理の一人鍋で使われる固形燃料に変わるもので、ポケットコンロのカートリッジ（カセットコンロのガスボンベの様なもの）を作っています。今回は、通称ポケコンの作業の流れを紹介したいと思います。

まず、作業工程のAラインでは、直径2ミリ程の穴にガスを吸い上げる為の芯をさす作業。Bラインでは、ボトルに活性炭を入れた後、芯をはめてキャップを締める作業と2ラインに分かれて作業をしています。

Aラインの仲間達は、四月当初は、独語・お喋りが多く中々作業に対する集中力・持続力が続かず、一時間に9個程しか完成させることが出来ませんでした。しかし、それぞれに合った自動具を工夫する事と仕事以外の言動を止めることで、現在では一人で一日に二百五十個程を完成させるまでになってきています。また、技術の向上

と共に自動具をどんどん外していても取り組めるようになってきています。更に、生産性や技術の向上を評価されることで、集中力・持続力、そして何より作業に対する『やる気』を感じられる様になってきました。Bラインも、初めは自分だけの単独作業でしかなかった仲間達でしたが、日替わりで色々な作業を行っていく中で、作業の流れがわかるようになって来ています。

今後は、みんながA・Bラインのどちらの工程でも出来るように、作業の幅を広げ、技術の向上を目指して行きたいと思っています。

岩田



7月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土	備考
	1	2	3	4	5 村上さん(36)	6	
				岩下さんの誕生日(30)	■ 6班宿レク		
					■ 1班宿レク		
7	8	9	10	11	12	13	
晴 七夕		■ 5班レク	■ 関さんの誕生日(32)	■ 3班レク	■ 亀崎さんの誕生日(29)	■ 家族会	
14	15	16	17	18 ■ 誕生会	19	20 休 節の日	
光山さんの誕生日(36)	■ 功一さんの誕生日(29)	■ 荒川さんの誕生日(27)	■ 関崎さんの誕生日(33)	■ 4班レク	■ 杉本さんの誕生日(23)		
21	22	23	24	25	26	27	
			■ タンポポ園集日	■ 菅原さんの誕生日(32)	■ 新一さんの誕生日(31)	■ 帰宅バス	
28	29	30	31	■ 岩下さん・村上さん・関さん・亀崎さん・光山さん・功一さん・荒川さん ■ 関崎さん・杉本さん・菅原さん・新一さんお誕生日おめでとう! 祝 7日 七夕、 ■ 13日 家族会、■ 18日 誕生会、■ 26日 夏祭り、■ 27日 帰宅バス			



VO募集しています。お待ちです!

ボランティア通信

梅雨に入り、外はシトシト、ジメジメ。しかし、三気の里は、カラッと晴れ渡った空のように元気一杯です。

この、いやな梅雨が過ぎると、いよいよ、大きなイベントである夏祭りを行います。開催日は、7月26日(金)です。

利用者、職員と一緒に楽しみませんか。ご協力をお願いします。

ボランティアありがとうございます
菊池

☆生け花 西村 栄子
☆ピアノ演奏 井川マリコ
☆除草作業 永吉 ゆり
☆染め物体験 内田 さよ
(敬称略)

出張・研修報告

- ・ 施設内研修 平野氏講演会 5月24日
- ・ 施設連絡協議会 5月30日
- 出張者 田邊 剛政
- ・ 知的障害児者の地域保健福祉サービスト コーディネーション研修会 6月4、5日
- 出張者 榎本 英也
- ・ てらん広場研修 6月11、15日
- 研修者 両角 彰則
- ・ 全国自閉症者施設連絡協議会 6月10日
- 出張者 松田 健
- ・ 全国施設長会議 6月11、13日
- 出張者 松田 健

編集後記

「はやっ」と言う歓喜の声! 今回のたんぼ編集員はひと味違います。抜群のチームワークで目指せ7時に終了の勢いでした。それには涙ぐましい努力が;前日にHさんが下準備をしていたことと私が6時から参加で足を引っ張る事がなかったからかも。木佐貫